

らは分からない宮ノ瀬窯の水車小屋の中のシステムとか、愛南町の城壁のように続く小西酒造場の建物とか、伊方町の石積みの旧国道とか、これらの景観は本当に面白いなと思いました。



東洋紡績川之石工場（八幡浜市）



睦月島縞行商関連住宅群（松山市）



喜多製蠟所（大洲市）

特に印象に残ったものということで、まず1つ挙げたいのが喜多製蠟所です。ハゼの実を使う木蠟というのは、生産業自体が全国で5軒しかないということで、これは本当に貴重だと思います。それから、皆さんよく勘違いされるので私もお茶の方でよく言うんですけども、近世のころの機械を使わない作業というのは、おいしいかどうか、きれいにできるかどうかは別にして比較的復元しやすいのですが、機械を昔の特許公報を見て作り直すというのは、ほとんど不可能なんです。だから、これは中も本当に古いのですがこの機械を昔のまま使いつつ、集中式のシャフトを天井裏で廻して、ベルトで繋いで機械を動かす方法でやりつつ残っている、この状態が本当に貴重だと思いますし、業としても貴重な分野です。

それから珍しいということで、砥部町ミカン小屋群、伊方町牛ダヤ群、伊方町ナヤ・フナグラ群、佐田岬半島

の石造防波堤群、大三島たんぼ群。これは群ということもいえるわけです。全く同じことが伊東先生の話でも出てきましたので省きますけれども、ある局地的な範囲に同じものが並ぶという景観がすごく面白いです。そういうところは、重要文化的景観とか伝統的建造物群保存地区とは違う部分なので、県内で独自の方法を取っていくしかないのかなと思います。ミカン小屋は静岡県の清水でも同じように町並みを形成しているかのような感じで山の中にポンポンあったりするのですが、全然この砥部のものに比べると簡素な感じなので、そういう点ではすごく面白い。それから、昨日、石灰窯をあらためて10年ぶりに見て本当に近代化に貢献した施設として重要だということがよく分かりました。ここは、窯がもちろん重要ですね。壊れているものがあって内部の構造などが本当によく分かるんです。そういう意味では窯の近代化の過程もある程度見えてくる。それから、私が思ったのは、例えば北海道のニシン番屋などもそうですが、昔、海から番屋に対してニシンを運んでいたとか、そういう部分の機械や構造物はほとんど残っていないんです。それがここでは全部残っている。ある意味では石炭産業のフィールドミュージアムになっているという意味ですごく面白かったと思います。

後は佐田岬半島、新居浜という部分があるのですが、佐田岬半島は先ほどの伊東先生のお話にもあったのですが、本当に近代化遺産という意味でいくとこの狭い半島の中にもものすごい数があるんです。これは面として何とかしていかなければならないという課題があります。それから、魚棚とか睦月島に関しては伝統的建造物が並んでいますので、そういうものを今後どう残していくのかというのは早急に考える必要があると思います。



目関家（旧浦和盛三郎家魚類製造家屋・愛南町）

それから浦和盛三郎さんのお宅ですね。これは直感的に本当に素晴らしいと思いましたし、犬伏先生のほうで本も書かれていますので、県下に周知されているものとしては、私は重要だろうと思います。

伊予銀行本店というのは、次にお話される曲田先生の